

しなののうた

霊山を眺める場所に碑のありて思いを馳せる女人結界



杉田小百合

しなののうた

季を過ぎた水芭蕉の葉うっそうと辺り一面妖気ただよう

杉田小百合



しなののうた

木道にぬめり残して蛇這うか穴二つ三つあり秋深みゆく



杉田小百合

しなののうた

団栗の林の中に山猫軒おちば三枚で払いは足りる

杉田小百合



しなののうた

山幾重織りなす紅葉それぞれに  
蔦ななかまど色を競えり



杉田小百合